

『農業』 年間総目次

—令和4（2022）年1月～12月，臨時増刊号—

巻頭言

年頭に当たって	吉田 岳志…1月
鳥獣害対策の 目指すべき方向	小栗 邦夫…2月
豊かさとは何だろう	手島 秀樹…3月
東京農業大学の「実学 主義」と榎本武揚，田中芳男， 横井時敬ぞして鈴木梅太郎	高野 克己…4月
実践性と学際性	生源寺眞一…5月
気候変動対策の当事者は 誰か	染 英昭…6月
地域農業リーダーの存在	雨宮 宏司…7月
ネパール農業の昨今 「総合農学」を牽引する 東京農業大学	西郷 正道…8月 江口 文陽…9月
食料安全保障とフード セキュリティ	松尾 元…10月
農業の未来に農芸化学が 果たす役割	山本 祐司…11月
環境保全型農業を 実践してみて	栗田幸太郎…12月

論 壇

「みどりの食料システム 戦略」と食料安全保障	堀江 武…1月
(有)トッピーバー社長・ 嶋崎秀樹氏の御逝去を悼む	納口るり子…2月
小さな改善で大きく 変わる農業経営—梨園と右腕が取り組んだ 500の業務改善—	佐川 友彦…3月
チキン・ブラジル ・ウクライナ	三石 誠司…4月
農業・農村政策の潮目が 変わる中で	榊田みどり…5月

農村が元気になること	丸山 清明…6月
これからのアグリ ビジネス	内山 智裕…7月
労働の確保は運動器の 健康から	宮田 恵…8月
土壌の情報化	寺島 一男…9月
農業・農村における グローバル連携	宮浦 理恵…10月
豪雪の農業のまちから	桑原 悠…11月
家畜のアニマルウェル フェアについて考える	広岡 博之…12月

総裁現地視察

総裁秋篠宮皇嗣殿下 山梨県の農事功績者表彰受章農家をご視察	吉田 岳志…12月
----------------------------------	-----------

中央農事講演会

わが国の食料安全保障を 考える—ウクライナ危機を踏まえて—	柴田 明夫…9月
----------------------------------	----------

農業懇話会

日本の農業生産力の要 —水田土壌をめぐる問題とその管理の 方向性—	西田 瑞彦…1月
露地野菜のリレー出荷の 課題と生育予測の意義	佐藤 文生…2月
国連気候変動枠組条約 第26回締約国会議（COP26）に参加して —農業をめぐる議論を中心に—	木内 岳志…4月
日本農業の担い手として の農業法人のプレゼンスと課題	納口るり子…8月
農業分野における外国人 労働者の受け入れ動向と課題	宮入 隆…9月
「令和3年度食料・	江川 和隆…11月

食用タンパク質研究会

- 第2回食用タンパク質 佐本 将彦…3月
研究会 大豆ミート及び大豆利用における
現状と課題（展望）
- 第3回食用タンパク質 羽鹿 牧太…5月
研究会 代替タンパク資源としての国産大
豆利用の可能性について—研究開発の立場
から—
- 第4回食用タンパク質研究会……………7月
- 第5回食用タンパク質 佐藤佳寿子…7月
研究会 代替タンパク質の技術開発動向と
未来一次世代タンパク質の姿とは—
- 第6回食用タンパク質 渡邊 崇人…8月
研究会 食品ロスを循環させる新たなタン
パク源としての「食用コオロギ」
- 第7回食用タンパク質 竹内 昌治…10月
研究会 食肉3.0 代替タンパク質として
の培養肉の可能性と課題について
- 第8回食用タンパク質 中村 卓…11月
研究会 おいしい食感のデザイン法—ター
ゲットとした「動物性食品らしいおいしい
食感」をどのようにプラントベースフード
（plant-based food）で実現するか？—
- 第10回食用タンパク質 和田 有史…12月
研究会 消費者の新食品の受容とリスク認識

地域セミナー

秋田：「稲作の底力」を 藤岡 茂憲…7月
見つけ直す 秋田農業における米の価値

表彰事業関係

- 令和3年度農事功績者表彰事業について…4月
総裁秋篠宮皇嗣殿下のお言葉
- 令和3年度大日本農会賞の受賞者……………4月
- 第60回全国青年農業者会議プロジェクト……………4月
クト発表・農業青年の意見発表等受賞者
- 令和2年度及び3年度農事功績者……………9月
表彰者受章祝賀式典

家族内役割 大越 一雄・大越 歌子…5月
明確化による米麦大規模経営の実現と経営
の多角化

都市型農業を基軸に消費 横田 竜雄…6月
者ニーズを見据えた樹木の生産と販売戦略

アイガモ農法による 井関 義次…12月
安心・安全なお米を農家から

表彰農家訪問

タバコからサツマイモへ 小巻 克巳…1月
の品目の転換と加工・販売の展開—熊本県
益城町に香山勇一氏を訪ねて—

高品質レンコンの周年 望月 龍也…2月
出荷によるブランド確立と生産組合による
後継者育成—新潟県長岡市に大規模レンコ
ン専作農家高橋秀信氏を訪ねて—

ウンシュウミカンの連年 長谷川美典…3月
高単収・高品質果実生産—海南省下津町に
橋詰孝氏を訪ねて—

亜熱帯地域における 中川 仁…4月
サトウキビ・肉用牛複合経営—沖縄県石垣
市に仲松益實・須磨子ご夫妻を訪ねて—

日本有数のバラ産地の 腰岡 政二…6月
形成に貢献—神谷豊秋氏を愛知県西尾市に
訪ねて

請負作業から始めた中山 小巻 克巳…10月
間地域における水稲法人経営とその多様化
—岐阜県郡上市に岩出明喜さんを訪ねて—

食を楽しむ

古き佳き野菜たちに 小堀 夏佳…1月
新たな息吹でWKWK♪旋風を

葛粉をとる 塚谷 裕一…2月

日本のコーヒーは世界— 井谷 善恵…3月

野菜をつくることは、 御倉多公子…4月
いのちをつくること

季節をいただく—鶴岡の 平 智…5月
孟宗とドイツのアスパラガス—

ポストコロナ時代に、 大平 恭子…6月
food for wellbeing の視点を

農園が舞台のファーム 水川 瞳…7月
ウェディング。等身大のおふたり、そして
農家さんの思いに寄り添いたい
「用途別栽培」のすすめ 青木 信博…8月
おいしいは、経験から 仔鹿 リナ…9月
フィンランド人は、森の 岡根谷実里…10月
ベリーでパイを焼く
心に響く紅茶と 小野 隆…11月
チョコレート
日本食である ラウラ コピロウ…12月
パフェは素晴らしい

研究の最前線

新たな食味評価法を用いた 中場 勝…1月
極良食味水稲品種「つや姫」の育成と普及
キクの花が咲く仕組みの 久松 完…2月
理解と開花制御技術の開発—キクを知り、
キクを操る
北部九州における気象 西尾 善太…3月
条件との関係に基づいたコムギの収量向上
の方策
乳牛のメタン排出削減を 小林 泰男…4月
目指した未来の飼養管理技術開発に向けて
—ウシげっぷ由来メタンガス削減研究の現
状—
窒素汚染の解決と作物 吉橋 忠…5月
生産性向上の両立に向けた生物的硝化抑制
(BNI) 強化コムギ
農業水利施設を長持ち 中嶋 勇…6月
させるために—ストックマネジメントは
もったいないの精神—
ブロッコリー増収のための 高橋 徳…7月
仕立て技術の開発—2花蕾どりにかけた研
究の軌跡—
水田から排出される 常田 岳志…8月
温室効果ガス—メタンを削減するための育
種的、栽培的アプローチ—
水稲根系の形態と 森田 茂紀…9月
機能を読む—現場から学び、現場に還すに
は—
害虫カメ 佐藤 由也・菊池 義智…10月

ムシと共生細菌が協力して農薬を解毒—害
虫が農薬抵抗性になる新たな仕組み—
果実の香りの分析 伊藤 友彦…11月
—香り特性と遺伝情報との関係性—
田んぼダム 皆川 裕樹・北川 巖…12月
器具の機能評価と現地取り組みの最前線

農業・農村の現場から

山村の無人駅で手作り 松本 和浩…1月
料理をお腹いっぱい—サヨばあちゃんが目
指す「万人の活躍の場」の建立—
年間49万人が訪れる農業 下山 伸幸…2月
交流拠点—長崎県大村市の有限会社シュ
シュの取り組み—
6次産業の商品開発と 青木 美紗…3月
販路開拓—共感と信頼を高め合う西日本産
直協議会を事例に—
地域の「いいもの」 松本 敏一…4月
再発見！関金わさびで地域おこし—西河商
店 西河葉子さんのチャレンジャー
消費者目線でフルーツ 児玉 典男…5月
産地を元気に—観音山フルーツガーデン・
フルーツパーラー—
「半農半X」提唱 塩見 直紀…6月
・四半世紀—日本に、世界に、「農業配慮者
人口」を増やす試み—
ウメ産地を未来に 山本宗一郎…7月
つなげる伐採班の活動
「部分浅耕—工程播種」 川村 富輝…8月
によるダイズの産地振興と今後の普及
在来作物の魅力・課題・ 江頭 宏昌…9月
今後の可能性—山形在来作物研究会ととも
に歩んだ20年で考えたこと—
米の新たな加工品 飯尾 美玲…10月
「米ドレッシング」の開発—農林大学校生
の挑戦—
農家のIT利用をどう 衣笠 智子…11月
進めていくか—兵庫県養父市の農家アン
ケートに基づいて—
鳥根県オリジナル品種を 朝倉 祥司…12月
核としたアジサイ産地の育成—仲間と築く
アジサイブランド—

世界の農業は今

- パプアニューギニアに 小谷 真吾…1月
おけるバナナの品種と利用
- フィンランド農業の 内山 智裕…2月
構造変化と食料安全保障
- タイの稲作とコメ輸出の 宮田 敏之…3月
現状と課題
- ブラジルにおける大豆 林 瑞穂…4月
生産の現状と課題
- 地盤沈下するアメリカ 山田 優…5月
農業—新興国の台頭と気候変動—
- ロシア農業・農政の現状 長友 謙治…6月
—コロナ禍とウクライナ侵攻の下で—
- ウクライナ危機が世界・ 内田多喜生…7月
日本の農業に及ぼす影響
- タンザニア・キリマン 辻村 英之…8月
ジャロの農家経済経営と農産物販売・流通
の特質—利益追求・安全保障の経営目標・
行動と社会的連帯経済—
- 大規模で多様なカナダ 松原 豊彦…9月
農業と当面する課題
- フィンランド酪農の 内山 智裕…10月
構造変化と経営対応
- インド農業の現状と課題 野崎由紀子…11月
—巨大人口をだれが養うか—
- 欧州での食品表示と 後藤 一寿12月
エシカルな消費に対応する環境表示の動向

私の経営と志

- 自分に合った志を 岡村 知世…1月
—育児と農業の両立—
- 手よりも頭を動かす農業 當間 大樹…2月
—沖縄から直感と直観による考察—
- 農を日常に—江刺リンゴ 高橋 真樹…3月
生産と、思い描く未来のカタチ—
- 愛知県で憧れの和牛繁殖 丹羽 佑介…4月
農家を経営—技術の見つけ方—
- 自分が変われば経営も 齊藤 翼…5月
変わる—十勝で小麦・大豆の収量向上を図る—
- 私は北信州・木島平村 山崎 広樹…6月
キノコ屋—就農して思う事—

- 魅力あるカッコいい農業 富田 純大…7月
—滋賀県高島市朽木でおいしい米づくり—
次世代が継ぎたくなる 鈴木 大地…8月
—ような経営—後継者に投資を—
- 大阪府堺市でトマトの 芝尾 和樹…9月
生産直売—商品は自分自身、売りたいのは
笑顔—
- 岡山市で野菜中心の複合 濱名 伸治…10月
経営—遊撃農家として農業を支える—
- 宇都宮市で米麦生産 野澤 俊樹…11月
—耕作地と国産農作物を守る—
- 福岡県鞍手町で野菜・ 貞末 雄介…12月
米の複合経営—兼業農家から専業農家へ—

農家の気持ち

- 国土を守る「ランドス 大津 愛梨…7月
ケープ農業」という古くて新しいスタイル
- わがままな野菜オクラ, 石塚 虎雄…8月
我慢強いトマト—農業は土作りが基本—
農業現場の大変さを知る 榎本 房枝…9月
—ことで料理が変わる—
- リンゴ農家の憂い 木村 徳英…10月
はじめまして農業 曾我 笑子…11月
100年続く酪農を目指して 青沼 光…12月

東京農業大学収穫祭から

- 循環型資源について 農友会農村調査部…1月
考える
—バイオプラスチックから見た社会—
降雨から農地基盤の未来をグローバルに考
える!? —生物由来の土壌改良・保全について—
生産環境工学科地水環境工学研究室……2月
若い世代が考える大豆ミートの可能性
国際バイオビジネス学科 ……………3月
経営戦略研究室

農業関係予算

- 予算から見る農林水産業 編集部……………3月

統計情報

- 令和3年度 食料・農林水産業……………5月

・農山漁村に関する意識・意向調査
加工・業務用野菜の実需者ニーズに関する
意識・意向調査結果
令和3年産みかんの結果樹面積、……………6月
収穫量及び出荷量
令和4年集落営農実態調査結果……………7月
(令和4年2月1日現在)
畜産統計……………8月
[2022(令和4)年2月1日現在]
2021(令和3)年産大豆生産費……………9月
(個別経営, 組織法人経営)
2021(令和3)年新規就農者調査結果…11月
2021(令和3)年農業経営体の……………12月
経営収支

その他

「令和3年度飼料用米多収日本一」……3月
受賞者
令和3年度全国農業大学校協議会……………5月
プロジェクト発表会・意見発表会の受賞者
について
令和4年度(第61回)農林水産祭……………12月
天皇杯等受賞者
令和4年度農業技術功労者表彰……………12月
第10回(通算72回)農業普及活動高……………12月
度化全国研究大会における事例発表受賞者
農政情報……………1~12月
大日本農会だより……………1~12月
編集部から……………1~12月

表紙写真説明

虎豆の脱穀作業(北海道訓子府町)……1月
雪中キャベツの収穫(長野県小谷村)…2月
タラの芽「ぐんま春王NT」……………3月
の収穫作業(群馬県東吾妻町)
アスパラガスの収穫風景……………4月
(長崎県長崎市)
坂折棚田オーナー田植え作業……………5月
(岐阜県恵那市)
滋賀県が開発したこだわりの高級地鶏…6月
「近江しゃも」のヒナ(滋賀県日野町)
京都「万願寺甘とう」の検品作業……………7月
(京都府舞鶴市)
ハウス柿の選果風景……………8月
(奈良県五條市西吉野町)
シークワサーの収穫風景……………9月
(沖縄県大宜味村)
香川県オリジナルキウイフルーツの……10月
除袋・収穫作業(香川県善通寺市)
美東ごぼうの収穫作業……………11月
(山口県美祿市)
愛媛果試第28号の枝つり作業……………12月
(愛媛県松山市)

臨時増刊号

令和3年度農事功績表彰者の紹介……………3月
令和4年度農事功績表彰者の紹介……………12月

編集部から

今年も残り約1カ月。師走とはよく言ったもので、編集部は原稿作成や編集作業に追われています。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響で会議や調査が一部延期になりました。しかし、昨年は開催できなかった農事功績者表彰式が開催されるとともに、オンラインで開催していた総裁殿下のご視察も現地で行うことができ、当会の活動も徐々にではありますが日常に戻りつつあります。

会誌では、「より親しみやすく」をモットーとして、昨年7月から始めたさまざまな分野で活

躍されている食の専門家の方のエッセー「食を楽しむ」を1年通じて連載することができました。また今年の7月からは、食のエッセーのコンビとなる、農のエッセー「農家の気持ち」の連載を始めました。これは、各地で活躍されている農家の方に加えて、かつては盛んであった当会の会員の方からのご寄稿もいただいています。来年に向けては、会員の皆様に喜んでいただけるよう、さらにより多くの方に興味を持っていただけるよう、誌面の充実を図ってまいります。

(HB)